

岐阜大学シラバス作成ガイドライン

令和6年10月15日

教学委员会承認

このガイドラインは、「人が育つ場所」であることを理念とする岐阜大学が、シラバスを刊行するにあたって、それが学生に適切に理解され、機能するよう、本学で教鞭を執るすべての教員に対して一定の方向性を定め、その履行を求めることを目的とするものである。

シラバス作成の原則

1. シラバスは、岐阜大学が開講する授業について説明する基本文書である。
2. シラバスは、本学の授業を履修する、または履修を検討しているすべての者（本学の学生でない者を含む）に対して、その授業内容、必要な学習、成績評価の方法等について事前に示し、それによって受講生が適切な履修計画を立て、各授業の回に先立って予習を行い、授業後には復習を行うことを可能にするものである。
3. シラバスには、成績の評価基準、成績の評価方法など、学生の利益に関わる重要事項を、遺漏なく詳細に明記し、シラバスに記載した事項によって成績評価を行うこととする。

1. シラバス入力項目

項目	記載内容
授業概要	授業の全体を把握できるように概要を記述します。
到達すべき目標	本授業を履修した結果、どのような知識・能力等を修得することが期待されているのかを箇条書きで記述します。<u>学生のパフォーマンスが、本欄に記載した目標に届くことが、成績評価の「可」となります。</u> <u>※成績評価はこの「到達すべき目標」を基に行いますので、必ず箇条書きで記述ください。</u>
授業計画と準備学習	各回の授業内容を可能な限り具体的に記述します。 さらに、各回に対応する準備学習を具体的に記述します。準備学習については、「授業時間外の学習」にまとめて記述することもできます。
授業実施方法	授業の実施方法を選択します。 ☐対面 ☐ライブ遠隔 ☐オンデマンド ☐ブレンド型：対面と遠隔を組み合わせた授業 ☐その他：自由記入欄に具体的に記述ください。 ☐自由記入欄（ ）
授業の特色	授業の形式面での特色を選択（複数可）します。 ☐討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表 ☐フィールドワーク、キャリア実習（インターンシップ）、ものづくり等の体験型学習 ☐図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用 ☐ゲストスピーカーの招聘

	☐ TACT, Teams を活用した授業と学習支援 ☐ レポートの添削や提出物の返却 ☐ その他 ()
学生のアクティブ・ラーニングを促す取組	授業に取り入れている取り組みを選択（複数可）します。 ☐ 事前学習型授業 ☐ 反転授業（オンラインを活用した事前学習） ☐ 調査学習・フィールドワーク ☐ グループワーク／対話・議論型授業 ☐ プレゼンテーション ☐ PBL（問題解決型，プロジェクト型） ☐ 授業前・授業後レポート ☐ その他 ()
使用言語	☐ 日本語， ☐ 英語， ☐ その他 () を選択します。
TA, SA 等配置予定	GSI, QTA, TA, SA による支援体制を選択します。 ☐ GSI による授業支援 ☐ QTA による授業支援 ☐ TA による授業支援 ☐ SA によるピアサポート ☐ その他 ()
基盤的能力 専門的能力	基盤的能力のうち，本授業で特に重点的に指導するものを選択します。各授業の内容等に応じて，必ず入力してください。 「 https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/g_education/base.html 」 進める力： ☐ 計画力・ ☐ 実行力・ ☐ 管理力 伝える力： ☐ 傾聴力・ ☐ 発信力・ ☐ 状況把握力 考える力： ☐ 課題発見力・ ☐ 創造的思考力・ ☐ 論理的思考力 そのうえで，専門的能力の育成について記載します。
授業時間外の学習	授業時間外の事前の準備や事後の展開等にどのような学習が必要とされるかについて具体的に記述します。授業内容の準備や確認，理解の深化のための自宅や図書館等での学習について記述します。必要に応じて，TACT, Teams, 図書館等を利用した学習方法と内容についても記述します。
成績評価の方法	到達すべき目標に対する学習の到達度を評価する方法と割合を示します。成績評価はあくまで到達度に基づいて行ってください。出席や欠席したことを得点に反映することはできません。 ※学生の利益に関わる重要な項目です。必ずこのシラバスの中に記載してください。外部のウェブサイトリンクを貼ったり，個人のウェブサイトやSNS等で発信したりすることは固く禁じます。
到達度評価の観点	到達すべき目標に対する学習の到達度を評価する際，どこに着目するのか，その具体的な観点や基準を記載します。 ※学生の利益に関わる重要な項目です。必ずこのシラバスの中に記載してください。外部のウェブサイトリンクを貼ったり，個人のウェブサイトやSNS等で発信したりすることは固く禁じます。
テキスト	使用する場合は必ず題名，著者名，出版元，出版年を記載します。
参考文献	参考文献があれば必ず題名，著者名，出版元，出版年を記載します。
担当教員実務経験内容または実践的教育内容	高等教育の修学支援新制度の対象となる機関の要件に係る記載欄です。文部科学省で承認を受けた内容を学務部教務課で記載します。新たに記載を希望する場合は，学務部教務課へご連絡願います。
実践的授業内容等	高等教育の修学支援新制度の対象となる機関の要件に係る記載欄です。文部科学省で承認を受けた内容を学務部教務課で記載します。新たに記載を希望する場合は，学務部教務課へご連絡願います。

備考	後述の「2. 入力項目の説明」「(14) 備考」の記述を参考にご記入ください。
----	---

2. 入力項目の説明

シラバスの記入にあたっては、すべての項目について漏れなく記載し、空欄のまま残すことのないようにお願いします。

(1) 授業概要

学生が授業の全体像を把握できるよう、授業で扱う主題等を簡潔に記述します。

(2) 到達すべき目標

本授業を履修した結果、どのような知識・能力等を修得することが期待されているのかを箇条書きで記述します。つまり、**学生のパフォーマンスが、ここに記載された目標に届いた時、成績評価の「可」として、初めて単位（可）を付与することができます。**

到達すべき目標を考える際には、それが、岐阜大学全体の教育における3つの方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）と繋がるものであることはもとより、専門科目においては各学部・研究科の教育における3つの方針と、全学共通教育科目においては『全学共通教育科目履修案内』掲載の全学共通教育の方針および各科目区分の【目標】と対応していることが求められます。

換言すれば、個々の科目のシラバスに記された「到達すべき目標」の集合が、学部・研究科、および大学全体の教育目標であることが理想です。また、学生が「到達すべき目標」をクリアできたかどうかを確認する手段が、後述する「到達度評価の観点」となるよう心がけてください。

(3) 授業計画と準備学習

各回の授業内容を可能な限り具体的に記述します。

さらに、各回の学習内容に対して、学生の主体的な学習の助けとなるように、対応する準備学習を具体的に記述します。ただし、各回に対応させた準備学習が記述しにくい場合には、「授業時間外の学習」にまとめて記述することもできます。

(4) 授業実施方法

授業方法について選択します。対面、ライブ遠隔、オンデマンド、ブレンド型以外の授業方法はその他に、また補足があれば自由記入欄に記述します。

☐ 対面：原則として対面で実施する授業

☐ ライブ遠隔：授業場所は定めず特定の時間にリアルタイム配信を行う授業

☐ オンデマンド：すべてオンデマンドで実施する授業（事前に録画した講義動画等の教材を使用）

☐ ブレンド型：対面と遠隔を組み合わせた授業

☐ その他：自由記入欄に具合的に記述ください。

☐ 自由記入欄（ ）

(5) 授業の特色

授業の形式的な（形式面での）特色を選択（複数可）します。全ての回においてこれから実施するというだけでなく、一回でも該当するものがあれば選択してください。

☐ 討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表

☐ フィールドワーク、キャリア実習（インターンシップ）、ものづくり等の体験型学習

☐ 図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用

☐ ゲストスピーカーの招聘

☐ TACT, Teams を活用した授業と学習支援

☐ レポートの添削や提出物の返却

☐ その他（ ）

(6) 学生のアクティブ・ラーニングを促す取組

次に示す本学のアクティブ・ラーニングの定義を踏まえて、学生の主体的・対話的で深い学びを促進する取組について選択（複数可）します。選択項目にはないが能動的な学習を含むと考えられる方法はその他を選択し具体的な内容を記述します。**学生の意欲を高めるための工夫であれば、授業のスタイルだけに捉われることなく、どのようなものでも積極的にアピールしてください。**

以下の「シラバス記入の例」もご参照ください。

☐ 事前学習型授業：教科書／参考書等で講義に関する知識を授業外学習（事前学習）させ、授業ではその学習で得た知識を活用して議論や演習を行わせる方法。

☐ 反転授業（オンラインを活用した事前学習）：授業に先立って講義動画を視聴させ、授業ではその講義内容を踏まえて議論や演習を行わせる方法。

☐ 調査学習・フィールドワーク：与えられたテーマについて、授業中や授業外学習において調べものをさせる方法。また、学内外のフィールドや施設等に赴き、現地で調査・観察して情報収集を行い、学びを得る方法。

☐ グループワーク／対話・議論型授業：学生をペアまたは少人数のグループに分け、授業で提示された課題に協同で取り組ませる方法。また、特定のテーマについて、対話やディスカッションおよびディベートなどを通じて理解を深める方法。

☐ プレゼンテーション：PowerPoint やレジュメ等を用いて発表資料を作成し、実際に他の学生や複数人の聴衆の前で口頭発表を行わせる方法。

☐ PBL（問題解決型、プロジェクト型）：社会における現実的な問題やテーマに沿って課題や目標を設定し、それらの解決策の検討や実現に向けて行動する過程から、様々な知識やスキルを学ばせる方法。

☐ 授業前・授業後レポート：授業前に配布した資料をもとにレポートを作成させる。または、授業後に学んだことや議論内容を踏まえてレポートを作成させる方法。

☐ その他（ ）

〔岐阜大学のアクティブ・ラーニング〕 （令和 6 年 10 月 15 日制定）

アクティブ・ラーニングとは、主体的・対話的で深い学びのことをいい、学生が自らを取り巻く課題や自ら見つけたテーマについて個人またはグループで探究する意欲的な学びである。

岐阜大学では、社会に出た時に必要な能力である知的探求力，協働問題解決能力，自己表現力などの育成をしている授業をアクティブ・ラーニング志向科目と呼ぶ。

(7) 使用言語

☐日本語，☐英語，☐その他（ ）から選択します。

授業において使用する言語を選択します。

(8) TA, SA 等配置予定

GSI, QTA, TA, SA による支援体制を選択します。

予算が確定しない段階であることも考慮して、「予定」としてしています。

☐GSI による授業支援

☐QTA による授業支援

☐TA による授業支援

☐SA によるピアサポート

☐その他（ ）

GSI… 学部学生や社会人受講生等を対象とした教育において，教員の指導の下，授業計画原案の作成，一部の授業の実施，成績原案の作成等にあたる本学の博士課程学生。

QTA… 学部学生や社会人受講生等を対象とした教育プログラムにおいて，教員の指導の下，講義実施，モジュール担当等，実験，実習，及び演習における専門的な支援等の高度な教育支援業務にあたる本学の修士課程及び博士課程学生。

TA… 学部学生，学環学生及び大学院修士課程学生に対する実験，実習，演習等の教育補助業務を行う大学院学生

SA… 教育補助業務，学生支援補助業務，本学が実施する事業の補助業務，その他部局等の長が必要と認める業務を行う原則 2 年次以上の学部学生及び学環学生。

(各実施要項より)

(9) 基盤的能力／専門的能力

全共科目，専門科目のいずれの科目も，基盤的能力と専門的能力の両方について記載してください。

岐阜大学では，すべての教育活動を通じて，学生が基盤的能力を身につけ，あるいはさらにそれを伸ばさせることを目標としています。したがってすべての教員は自らが担当する授業の中で，以下に示す基盤的能力の 9 つの要素すべてを開発するよう指導することが求められています。その上で，9 つのうち，特にこの授業で重点指導するものについて，☐を■に変更して示します。ここで選択した重点的指導項目は，学生ステータス・システ

ム (crescendo) に反映されます。その点も踏まえて選択してください。基盤的能力の定義は次のとおりです。詳しくは、「岐阜大学 基盤的能力」で検索してください。

(https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/g_education/base.html)

基盤的能力

この表は岐阜大学において育成すべき「基盤的能力」の3つの力、9つの要素の内容と学部あるいは大学院レベルでの達成目標(水準)を表しています。

3つの力	9つの要素	内容	水準(達成目標) 学部レベル	水準(達成目標) 大学院レベル
進める力 自立的 行動力	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	課題解決のプロセスを理解した上で、課題の解決に向けた計画が立案できる	課題解決のプロセスを理解した上で、課題の解決に向けて立案した計画に基づいて行動できる
	実行力	目的を設定し他者に働きかけ協同して、確実に実行する力	目的を設定し他者と協同して実行することができる	設定した目的にむけて他者と協同して、一緒に達成にむけた行動を確実に実行することができる
	管理力	目的に向かって自身やチーム等の行動や活動をコントロールする力	目的に向かってチームの行動や活動をコントロールできる	目的に向かって自身やチーム両方の行動や活動をコントロールすることができる
伝える力 コミュニ ケーション力	傾聴力	相手の意見を理解しながら丁寧に聞く力	相手の意見を理解しながら聞くことができる	相手の意見を理解しながら丁寧に聞くことができる
	発信力	自分の意見を、事例や客観的データ等を用いて聞き手の状況を理解しながらわかりやすく伝える力	客観的なデータを用いて自分の意見をわかりやすく伝えることができる	自分の意見を、事例や客観的データ等を用いて聞き手の状況を理解しながらわかりやすく伝えることができる
	状況把握力	自分と周囲の関係を理解し、集団や社会、会話等の場でつづられている文脈を把握する力	自分と周囲の関係を理解し、その場の状況が把握できる	自分と周囲の関係を理解し、集団や社会、会話等の場でつづられている文脈を把握し、その状況が説明できる
考える力 総合的 判断力	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにし準備する力	自ら現状分析し、目的や課題を明らかにできる	現状分析して明らかになった目的や課題の解決に取り組む準備ができる
	創造的思考力	複数の考えを組み合わせたり、従来の発想を転換し、新しい価値を生み出す力	複数の考えを組み合わせることができ、新しい発想を生み出すことができる	様々な分野に関して複数の考えを組み合わせ、新しい発想や価値を創造することができる
	論理的思考力	物事を分析、統合、比較、関係づけて、筋道を分かりやすくつづける力	物事の一つの対象について、論理立てて考えることができる	物事を分析、統合、比較し、相互を関連づけて、筋道を分かりやすく説明することができる

進める力：□計画力・□実行力・□管理力

伝える力：□傾聴力・□発信力・□状況把握力

考える力：□課題発見力・□創造的思考力・□論理的思考力

そのうえで、全学共通教育科目、専門科目の別を問わず、専門的能力や資質に関して、育成を意図する指導について記載します。

(10) 授業時間外の学習

1単位＝45時間の学修を必要とする内容(大学設置基準第21条)という原則に則って、授業時間外の事前の準備や事後の展開等にどのような学習が必要とされるかについて具体的に記述します。授業内容の準備や確認、理解の深化のための自宅や図書館等での学習について記述します。必要に応じて、TACT, Teams, 図書館等を利用した学習方法と内容についても記述します。

授業時間外の主体的な学習の助けとなるように、どのような学習が期待されているのかを具体的に記述します。

(11) 成績評価の方法

成績評価は必ず、令和2年2月18日教学委員会承認「岐阜大学成績評価基準」に基づいて行います。

到達すべき目標に対する学習の到達度を評価する方法と割合を示します。

たとえば、筆記試験(100%)、あるいは、定期試験(50%)、小テスト(20%)、宿題提出(30%)のように記述します。

※学生の利益に関わる重要な項目です。必ずこのシラバスの中に記載してください。外部のウェブサイトへのリンクを貼ったり、個人のウェブサイトや SNS 等で発信したりすることは固く禁じます。

※出席したことや欠席したことを得点に反映することはできません。

(12) 到達度評価の観点

到達すべき目標に対する学習の到達度を評価する際、どこに着目するのか、その具体的な観点や基準を記述します。

※学生の利益に関わる重要な項目です。必ずこのシラバスの中に記載してください。外部のウェブサイトへのリンクを貼ったり、個人のウェブサイトや SNS 等で発信したりすることは固く禁じます。

※出席したことや欠席したことを得点に反映することはできません。

(13) テキスト

使用する場合は必ず、題名、著者名、出版元、出版年を記載します。

「テキスト」に記載された書籍は、本学図書館に 1 部配備される予定です。

(14) 参考文献

参考文献があれば必ず、題名、著者名、出版元、出版年を記載します。

「参考文献」に記載された書籍は、図書館に 1 部配備される予定です。

(15) 備考

① 履修に際して学生に希望すること、あらかじめ有していることが望ましい知識・能力等があれば記載します。ただし、全学共通教育科目においては、学生のこれまでの学習歴によって、履修を制限することはできません。

② 全学共通教育科目は、すべての学生に開かれた科目です。したがって、特定の学部学科等の学生のみを受講を認めたり、逆に制限したり、抽選の際にそれらの学生を優先したりすることは認められません。

③ たとえば、質問等のため、学生が担当教員と連絡を希望する場合の方法を記載します。

※連絡先を記載すると学外にも公開されますのでご注意ください。

3. シラバス各項目の記入例（科目名を「視聴覚教育」とした場合）

項目	記載内容
授業概要	視聴覚教育におけるメディアの活用について、教育方法の史的展開からの位置づけを概観します。さらに、情報メディアの進展と教育での活用が学習理論を背景として教育的に意味づけられていることを理解します。これらの理解を背景として、メディアスペシャリストとして必要となる能力にもとづき、自らの学習成果をラーニングポートフォリオにより省察します。なお、適宜課題を示しな

	がらグループワーク等の活動による学習を求めます。
到達すべき目標	(1) 視聴覚教育の概要について経験を踏まえて説明し、視聴覚教材と学習理論について基礎的用語を用いて説明できる。 (2) 学校図書館司書教諭、社会教育主事、博物館学芸員におけるメディアスペシャリストとして必要な能力と社会的背景を説明できる。 (3) 自らの学習を適切に省察し、根拠に基づき叙述的省察を記述できる。
授業計画と準備学習	1. ガイダンス、教育方法としての視聴覚教育、学習の進め方、ラーニングポートフォリオ解説。 2. グループワーク・視聴覚教育の教育効果を経験から推論。 (・・・中略・・・) 15. ラーニングポートフォリオの相互交流。 ※準備学習については、「授業時間外の学習」に記載しています。
授業実施方法	■対面 ■自由記入欄（一部オンデマンドもありうる）
授業の特色	■討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表 ■図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用 ■TACT, Teams を活用した授業と学習支援
学生のアクティブ・ラーニングを促す取組	■事前学習型授業 ■グループワーク／対話・議論型授業 ■その他 ・TACT（または Teams）に、授業で扱ったことや関連するテーマについて自由に議論できる場を設けています。ぜひご参加を。 ・オフィスアワーは曜日や時間を限定せず在室時はいつでも対応します。<u>疑問は放置せずすぐにどうぞ。学内外で私を見かけた時に気軽に呼び止めて頂いても構いません。</u>
使用言語	■日本語、□英語、□その他（ ）
TA, SA 等配置計画	■TA による授業支援
基盤的能力 専門的能力	基盤的能力 進める力：□計画力・■実行力・□管理力 伝える力：■傾聴力・□発信力・□状況把握力 考える力：□課題発見力・□創造的思考力・■論理的思考力 専門的能力 教育方法・技術：総合的な学習経験と創造的思考力
授業時間外の学習	(1) 基本的な学習内容は授業時間外の e-Learning(ビデオ視聴を含む)を併用して進め、授業時間内には相互学習や討論を重視します。このため、TACT（または Teams）での e-Learning により自己のペースで学習することが求められます。 (2) 関連する内容について図書館等での文献調査により発展、深化する自主学習や自主ゼミ等を期待しています。 (3) ラーニングポートフォリオの作成には長時間を要するため、その根拠資料として自主学習の成果等を適切に整理することが求められます。
成績評価の方法	確認テスト・定期試験(70%)、ラーニングポートフォリオ(30%)
到達度評価の観点	(1) 視聴覚教育メディアの習得に必要な知識理解は、中間の確認テスト及び定期試験により評価します。 (2) 視聴覚教育メディアや育成能力、社会背景等に関する深い洞察に基づく説得力のある記述をルーブリックに基づき評価します。 (3) 自らの学習に対する省察をラーニングポートフォリオの記述や根拠資料により評価します。
テキスト	ありません。TACT（または Teams）に資料を掲載します。
参考文献	山口榮一著「視聴覚メディアと教育」玉川大学出版部、2004

	山内祐平編「デジタル教材の教育学」東京大学出版会，2010 日本教育方法学会編「デジタルメディア時代の教育方法」図書文化，2011
担当教員実務経験 内容または実践的 教育内容	
実践的授業内容等	
備考	担当教員との連絡等については，学務情報システムの中の「オフィスアワー」という項目に掲載しています。